

保育園における保育内容等の自己評価結果まとめ「令和6年度」

ねらい・・・一人一人の保育士等が自らの保育を振り返り取り組んでいることを再確認し更により良い保育に向けて課題を明確にしていく

1、園の保育理念・保育方針・保育目標の理解について

保育士をはじめ栄養士、調理員、子育て支援員等がそれぞれの有する専門性を発揮し保育に取り組んでいる。職種はそれぞれ違うが常に同じ方向性に向けて共通理解をはかるよう努めている。よって「おおむね達成出来ている」という評価が多かった。

2、保育について

全体的に「おおむね達成出来ている」「ほぼ出来ている」との回答だった。日頃から朝礼、終礼で子どもに関する情報を職員間で共有している。特に気になる点や課題などは、臨時の職員会議を設け話し合っている。常に子どもたちの「最善の利益」を考え一人一人の子どもの発達状況を把握し配慮した指導計画に努めている。

3、健康管理について

「おおむね達成出来ている」との回答だった。一人一人の子どもに合わせた保育を心がけ家庭と連携がなされている。

4、行事について

「おおむね達成出来ている」「ほぼ出来ている」との回答だった。行事の回数は適切でねらいがしっかりしている。

5、食事について

毎日の朝礼においてアレルギー児の食事チェック、終礼では、喫食状況の報告、また毎月1回は給食検討委員会等を開き話し合いの場を設けている。園の畑では、野菜を育て収穫したものを給食で提供するなど常に子どもたちが楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫している。「おおむね達成出来ている」「ほぼ出来ている」との回答だった。

6、運営について

園長や主任、職員の役割分担と責任が明確にされ、園児や保護者への迅速な対応ができる体制が整っている。「おおむね達成出来ている」「ほぼ出来ている」との回答だった。

7、保健・安全指導について

全職員が「おおむね達成出来ている」との回答だった。重大な事故にならないように

「ヒヤリハット」の報告を職員間で共有し予防策を講じている。

8、研修・研究について

全職員が園内、園外研修へ積極的に参加し保育の質の向上を図っている。「おおむね達成出来ている」「ほぼ出来ている」との回答だった。

9、守秘義務について

全職員が「おおむね達成出来ている」との回答だった。

10、設備について

全職員が「おおむね達成出来ている」との回答だった。今年度は「保育の見える化」を意識して掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用するよう努めた。

11、子育て支援について

「おおむね達成出来ている」「ほぼ出来ている」との回答だった。保護者の気持ちを受け止め保護者を理解し保護者が自ら選択、決定していくことを支援することを大切にした。

12、開かれた保育園づくりについて

「おおむね達成出来ている」「ほぼ出来ている」との回答だった。乳児保育園のため感染症には十分に注意し警戒して昨年までは外部との交流は慎重に対応し躊躇していた。だが「子どもたちには今しか味わえない貴重な体験も楽しんで欲しい」と感染対策をしながら今年は東京より「即興パフォーマーロクディムりょーちゃん」さんを招いての親子交流を試みた。結果は大盛況だった。

13、情報発信について

全職員が「おおむね達成出来ている」との回答だった。これからも試行錯誤しながら園活動に誰もが興味関心がもてるような情報発信に努めていきたい。まずは伝え方を工夫し、より分かりやすく伝わるように写真を選んでコメントをつけ情報発信するなど検討していきたい。

～人権擁護のためのセルフチェックリスト～

日々の保育を振り返り「気づいた点」や「良くないと考えられるかかわり方」「改善すべき点」など感じたことを記入し今後どのように保育に取り組むことが必要なのか考え保育の専門職としてさらなる保育の質の向上をめざしてもらうことを目的とする。

(1)「子ども一人一人の人格を尊重しないかかわり」について

- ・食べるのに時間がかかる子にせかしたりすることがないよう気をつけている。
- ・その子にあった食事形態を保育士と確認、相談しながら量なども調整し食べる意欲を損なわないようにしている。
- ・子どもなりに何かを伝えようと言葉や身振りで必死なのでこちらも懸命に聞き取ろうとすると難しい顔になりその子はだんだん暗い顔をして不安を与えてしまった。
- ・直ぐに遊びに飽きてしまう子と決め付けず子どもが遊びこめる環境作りを見直すようにしている。
- ・誰のための保育をしているのかももう一度見直し改め一人一人の気持ちに寄り添い尊重して関わっていきたい。

(2)「物事を強要するような関わり・脅迫的なことばかけ」について

- ・言葉掛けには十分注意してやわらかいしゃべり方を心がけている。
- ・子どもたちが意欲的に取り組めるような言葉を選び子どもの思いに寄り添って常に保育している。
- ・強要せず自ら「してみたい」とそういう気持ちになれるような言葉掛けを心がけている。
- ・好き嫌いが出てくると「今まで食べていたのに、、、、」と思いついつい口調がきつくなってしまうので気をつけたい。
- ・以前は「○○しないなら○○できないよ」と子どもたちに言っていたが今は「○○したら○○しようか」と次の行動へ誘うような言葉掛けにかえた。
- ・室内を走り回る子どもに走らないよう呼びかけ注意していたがとうとう友達とぶつかってしまう。泣いているその子に「ほら～そがんなるよって言ったやろ」と子どもを心配する前に責めるような言葉をかけてしまったことがある。
- ・時間や自分に余裕がない時に大きい声や強い口調になってしまうので気をつけたい。
- ・自分自身の体調を整えそのような関わりにならないように注意したい。
- ・乳幼児期は、いろいろな物事に興味や関心が向き常に危険とは隣り合わせで咄嗟に大きな声を出し周りを驚かせてしまうこともあるので気をつけたい。

(3)「一人一人の子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかかわり」について

- ・自分が発した言葉が子どもに影響を及ぼすと言う事を日頃から意識している。
- また、他の保育士の接し方を見て自分の保育を見直している。
- ・保育時間の長い子に対してお迎えに来られるまで不安にならないようゆっくり関わった。
- ・子どもたちの前で家庭のことを話さないよう気をつけているが話すこともあり気をつけたい。
- ・「ほほえみ」を通し家庭での食事、睡眠時間などを見て家庭に寄り添った保育を心がけている。

(4)「差別的なかわり」について

- ・男の子だから、女の子だからという関わり方はしていない。
- ・みんな平等に接するようにしている。
- ・反応が良い子についかかわりがちになるので他の子にも関わるように心がけを忘れないようにしている。
- ・子供同士の玩具の取り合いでは「いつもその子がとりあげているからまた今度も、、、」と一方的に決めつけてしまうことがあったのでそのようにならないよう気をつけたい。

〈まとめ〉

※どの項目においても「おおむね達成出来ている」「ほぼ出来ている」との回答で高い自己評価だった。日々の保育については朝礼、終礼、職員会議、給食検討委員会などを通して情報共有し一人一人の職員が専門性を活かし話し合い子どもたちの育ちを見守り援助している。自己評価は、日々の保育実践の意味を考え次のよりよい実践へとつなげていくために行うもの。今後も職員間でお互いに学び専門性を共に高めあってより良い保育を提供できるよう努力していきたい。